

日医ニュース

2025. 6. 5 No. 1528

発行所

日本医師会
Japan Medical Association〒113-8621 東京都文京区本駒込2-28-16
電話 03-3946-2121(代)
FAX 03-3946-6295
E-mail wwwinfo@po.med.or.jp
https://www.med.or.jp/

毎月2回 5日・20日発行 定価 2,400円/年(郵税共)



松本会長

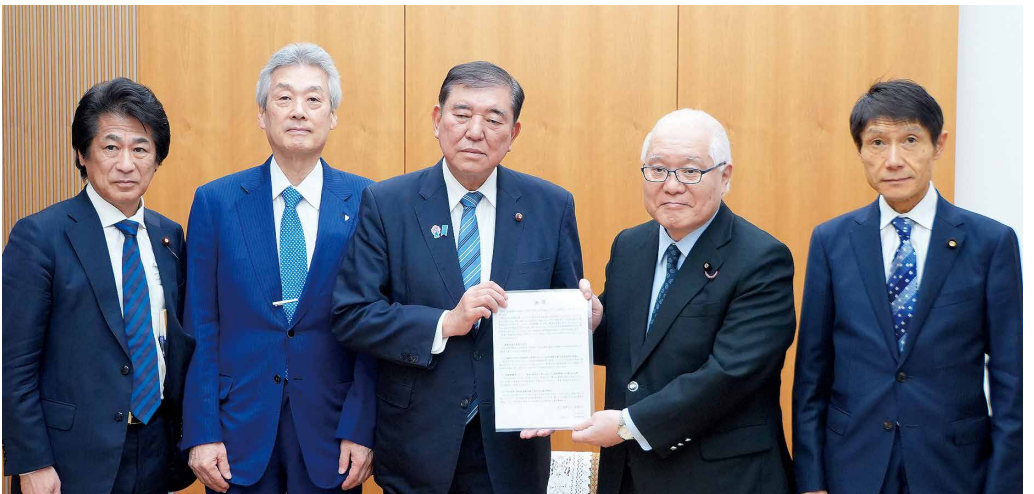
「国民医療を守る議員の会」の決議を基に
石破総理に医療の危機的な状況を
打開するための対応を要望

「国民医療を守る議員の会」総会には、松本会長を始め常勤役員や都道府県医師会の役員等117名の他、衆参の国会議員137名が出席。「骨太の方針2025」の取りまとめに向け、医療の危機的な状況を開くための要望について議論が行われた。

総会では、まず、田村顧問からあいさつが行われ、「自民党の社会保障制度調査会長として、医療関係者の厳しい状況は理解している」とした上で、病院や診療所の収支が悪化しており、特に地方の医療機関の経営は厳しい状況にあると強調。医療・介護・福祉業界で働く900万人以上の人々の賃上げが、日本経済の再生にとって不可欠であるとの考えを示した。

田文雄最高顧問は、今年の春闘の結果でも昨年以上の賃上げ率となったことに加え、「次期診療報酬改定では、経済成長の果実を医療分野にもしっかり還元していかなければならない」と述べた。

「医療機関の窮状を訴え、別次元の対応を求める」松本会長
総会に出席した松本会長は資料に基づき、(1)医療機関の経営状況、(2)賃上げの状況、(3)骨太の方針の策定に向け



松本吉郎会長は5月14日、都内で開催された「国民医療を守る議員の会(自由民主党の議員連盟の1つ)」総会に出席し、医療機関の窮状を訴えとともに、改めて補助金と診療報酬の両面からの対応を強く要望。更に23日には「国民医療を守る議員の会」の田村憲久顧問、武見敬三会長代行、古川俊治事務総長と共に総理官邸を訪れ、総会で取りまとめられた決議を基に石破茂内閣総理大臣に医療の危機的な状況を開くための対応を求めた。

度の推計では病院、有床・無床診療所の経常利益率の最頻値がいずれもマイナスとなっていることを説明。

また、債務償還年数の分析結果を見ると、半数の病院が破綻懸念先と判断される30年を超えていることにも触れ、①物価や賃金の上昇に対応できる仕組みを構築する②社会保障予算に関する財政フレームの見直しを行う③社会保障関連連費の伸びを高齢化の伸びの範囲内に抑制する取り扱いを改める——ことが不可欠であると主張した。

(2)では、令和6年春闘の結果、全産業での賃上げ合計額は5・1%上昇しているが、令和6年度診療報酬改定で創設されたベースアップ評価料は2・5%分の引き上げに過ぎず、全産業の賃金の伸びには到底及ばない状況にあると指摘。賃金上昇を踏まえた別次元の対応が必要であると訴えた。

(3)では、「まずは令和6年度補正予算を早期に執行するとともに、補助金と診療報酬の両面からの対応が必要」と強調。また、消費税収が増加していることに触れ、経済成長の果実である消費税増を社会保障に活用すべきと訴えた。

更に、令和8年度診療報酬改定に向けては、①経済成長の果実の活用②「高齢化の伸びの範囲内に抑制する」という社会保障予算の目安対応の見直し③診療報酬等について、賃金・物価の上昇に合わせた公定価格等への適切な反映④小児医療・周産期医療体制の強力な方策の検討——が必要だとし、協力を求めた。

厚生労働省から出席した鹿沼均保険局長は医療機関の非常に厳しい経営状況に理解を示した上で、その対応として補正予算の編成、無利子無担保融資、入院時食事療養費の引き上げ等を行ってきたことを説明。「補正予算は単年度の対応であるため、恒常的な対策として診療報酬改定が重要になる」と強調した。



「国民医療を守る議員の会」に出席した松本会長

その後、松本会長は5月23日、今回取りまとめられた決議を提出するため、「国民医療を守る議員の会」の田村顧問、武見会長代行、古川事務総長と共に官邸を訪問し、石破総理と会談を行った。

会談の中では田村顧問、武見会長代行が決議の内容等を説明。松本会長は、(1)病院では約7割が赤字で、実際に閉院となる病院もある他、診療所でも3割程度が赤字となっている、(2)医療機関では人材確保も厳しい状況となっていることなど、その窮状を改めて訴えた上で、「物価・賃金の上昇、日進月歩する医療の高度化等への診療報酬での対応とともに、緊急的な補助金での対応をお願いしたい」と要望した。

これに対して、石破総理からは決議の内容を熟慮する姿勢が示された。

かまやち副会長出演動画を
公式YouTubeチャンネルで
公開中!!

本年6月から職場における熱中症対策が義務化されたことを受けて、釜范敏副会長が産業医向けに分かりやすく説明した「職場における熱中症対策」の動画を制作しました。ぜひ、ご覧下さい。

釜范副会長
出演動画

日本医師会

定例記者会見

5月16日

最近の医療情勢における 日本医師会の考え方を 説明



た。

経済成長の果実を社会 保障に活用すべき

松本吉郎会長はまず、5月12日に自由民主党社会保険制度調査会、5月14日に国民医療を守る議員の会（自民党議員連盟）、公明党の社会保障制度調査会等において、「骨太の方針2025」の策定に向け、（1）経済成長の果実の活用、（2）「高齢化の伸びの範囲内に抑制する」という社会保障予算の目安対応の見直し、（3）診療報酬等について、賃金・物価の上昇に応じた公定価格等への適切な反映、（4）小児医療・周産期医療体制の強力な方策の検討——の四つの項目を主張してきたことについて改めて会見でも訴え

説明

その上で、令和7年度の消費税増収額が16・3兆円と令和4年度に比べて2兆円増加しているが、増

収分のうち1・7兆円は「後代への負担のつけ回しの軽減」として使われ、社会保障の充実には0・09兆円しか使われておらず、国民は消費税による社会保障の恩恵を実感できていないと指摘。「消費税収は社会保障に充てるとされており、経済成長の果実である消費税の増収分を社会保障に活用すべきである」と強調した。

また、5月14日に行われた国民医療を守る議員の会には、国会議員137名、都道府県医師会等から117名が出席したことに加え、日本医師会の主張を踏まえてその場で採択された決議は、「極めて重いものである」と強調。今後は、この決議をもって、同議連から「骨太の方針2025」の取りまとめに向けて政府・与党に要望を行ってもらうことになるが、日本医師会としても全力で取り組んでいくと意欲を示した。

国民医療を守る議員の 会の決議は極めて重い

次に、松本会長は医療機関の経営がかつてなく厳しい状況であり、経営努力の限界をとうに超えていることを説明。3月12日の6病院団体との合同記者会見において「ある日突然、病院が無くな

る」と訴えたが、実際に兵庫県伊丹市の地域医療支援病院が年度内での診療休止を検討しているとの報道があったことを挙げ、「恐れていた事態は起きようとしているのではなく、既に起きている。医療機関は言わば『限界まで乾いた布』のような状況にあり、いくら絞ったところでもう水は出ない。診療報酬の改定に当たっては、あくまで財源を純粋に上乗せするいわゆる『真水』での対応が必要である」と主張した。

また、5月14日に行われた国民医療を守る議員の会には、国会議員137名、都道府県医師会等から117名が出席したことに加え、日本医師会の主張を踏まえてその場で採択された決議は、「極めて重いものである」と強調。今後は、この決議をもって、同議連から「骨太の方針2025」の取りまとめに向けて政府・与党に要望を行ってもらうことになるが、日本医師会としても全力で取り組んでいくと意欲を示した。

また、5月13日の新しい資本主義実行本部で示された提言案に関しては、今後政府が取りまとめる「新しい資本主義実行計画」と「骨太の方針

2025」等に一体的に反映することになっており、「公定価格（医療・介護・保育・福祉等）の引き上げ」等が含まれることから、「より明確な表現で、確実な賃上げ・物価上昇への対応として反映されるよう、引き続き働き掛けていく」と述べた。

更に、5月13日の新しい資本主義実行本部の提言案に先立ち、12日に行われたヘルスケア・トランスフォーメーションプロジェクトチームにおいては、最先端医療についても、安全性が評価されて

2025」等に一体的に反映することになっており、「公定価格（医療・介護・保育・福祉等）の引き上げ」等が含まれることから、「より明確な表現で、確実な賃上げ・物価上昇への対応として反映されるよう、引き続き働き掛けていく」と述べた。

更に、5月13日の新しい資本主義実行本部の提言案に先立ち、12日に行われたヘルスケア・トランスフォーメーションプロジェクトチームにおいては、最先端医療についても、安全性が評価されて

更に、5月13日の新しい資本主義実行本部の提言案に先立ち、12日に行われたヘルスケア・トランスフォーメーションプロジェクトチームにおいては、最先端医療についても、安全性が評価されて

電子処方箋リモート署名サービス有償化に係る 要望書を日病協と共に厚労省に提出



日本医師会はこのほど、日本病院団体協議会と共にHPKIセカンド電子証明書による電子処方箋リモート署名サービス有償化に係る福岡資麿厚生労働大臣宛ての要望書を取りまとめ、5月23日に長島公之常任理事らの同席の下、望月泉日病協議長から城克文厚労省医薬局長に提出した。

今回の要望書の提出は今年2月下旬に医療情報システム開発センター（MEDIS）から、（1）当初支払基金が構築する予定であったHPKIセカンド鍵署名（クラウド

署名）サービスをMEDISが代わりに担っている、（2）公的補助金が年々減少して2024年は補助が打ち切られた、（3）災害対応未実装のため、開発費と維持費の増額が見込まれる——ことなどを理由として、HPKIセカンド電子証明書による電子処方箋・電子調剤記録の電子署名サービス利用料有償化の通知が出されたことを踏まえて、行われたものである。

要望書では、電子処方箋運用開始以来、導入支援が行われてきた中で、

医療DXの基盤となるサービスに有償化することは、普及促進の流れに逆行するものだと指摘。その上で、医療の質向上や重複投薬抑制、業務の効率化が期待される電子処方箋を導入する病院を支援するため、①HPKIセカンド電子証明書による電子処方箋リモート署名サービス利用料有償化を見直す②HPKIセカンド電子証明書による電子処方箋リモート署名サービス提供者に対する公的補助を再開する——ことの2点の実現を強く求めている。

デジタル医師資格証は、医師資格証（HPKIカードまたはセカンド電子証明書）をお持ちの方がご利用になれるアプリです。

医師資格証をまだ申請されていない方は、是非お申し込みください。

【デジタル医師資格証でできること】

- ・全国医師会研修管理システムで管理している講習会受講履歴と学習単位の表示
- ・電子処方箋発行のためのQRコード読取※お使いの電子処方箋システムがカードレス署名に対応している場合
- ・偽造防止策を施した医師資格証の券面情報の表示 など

医師資格証申込

検索



デジタル医師資格証とは？

日本医師会が発行する
スマホで使える電子版の医師資格証です。



第33回日本医師会・日本臨床分科医会代表者会議

釜范副会長が 医療介護現場の経営状況の厳しさを説明し 骨太の方針への対応に協力を求める

第33回日本医師会・日本臨床分科医会代表者会議が5月14日、日本医師会館小講堂で開催され、日本医師会からは松本吉郎会長を始めとした役員が出席。医会側からは幹事を務めた日本小児科医

会を始め、13の医会等の代表者が参加し、日本医師会からの報告や各医会等からの日本医師会への要望などに係る意見交換が行われた。

冒頭、開会あいさつを行った伊藤隆一日本小児科医会長は、比例代表の日本医師連盟の推薦候補者である釜范副会長の更なる支援に向けて、各医会等に対して、引き続き広報・宣伝への協力を呼び掛けるとともに、本会議で有意義な議論がなされることに期待を寄せた。



釜范副会長



江澤常任理事

情勢報告、(2) 骨太の方針に向けた対応、(3) 新たな地域医療構想等に関する検討会の審議経過、(4) 医師の地域偏在・診療科偏在への対応、(5) かかりつけ医機能報告制度の状況について報告した。

(1) では、釜范副会長がまず「医療・介護現場の経営状況は極めて厳しく、今後、持続可能性のある形で次世代につなげていくことができるのか危うい状況にある」と指摘。具体的には、①無床診療所の経常利益率の最頻値は令和5年度で0.051・0%であったが、令和6年度はマイナス3.05・マイナス2.0%に更に悪化する見込みである②医療利益の赤字病院割合は69%まで増加、経常利益の赤字病院割合は61%まで増加している③急性期、慢性期、精神科、いずれの病院も医療利益率は経年的に悪化している④介護現場においては、物価高騰の影響が大きい——こと等を詳説し、「このままでは医療や介護の事業継続は極めて困難になり、崩壊する医療機関も出てくるが、一度崩壊してしまえば取り返しがつかなくなる。また、最も懸念されるのは、国民が求める医療や介護を提供できなくなることだ」と訴えた。

その上で、

(2) ではその解決策として骨太の方針に向けた対応について説明。釜范副会長は、「補助金と診療報酬の両面からの対応」などの他、令和8年度診療報酬改定に向けては、①経済成長の果実の活用②「高齢化の伸びの範囲内に抑制する」という社会保障予算の目安対応の見直し③診療報酬等について、賃金・物価の上昇に応じた定価価格等への適切な反映④小児医療・周産期医療体制の強力な方策の検討——を要望しているとし、日本医師会としても引き続き国へ働き掛けていくとした。

(3) では、江澤和彦常任理事が2023年度病床機能報告について、2025年では119万床が見込まれる他、急性期が若干減り、回復期が増えていることから、一定の進捗があったとの評価がなされていると説明。その上で、新たな地域医療構想においては、医療機関機能に着目するとともに、「治す医療」を担う医療機関と「治し支える医療」を担う医療機関の明確化等を指すとし、病床機能報告の「回復期」については、日本医師会がこれまで提案していた「包括期」へと名称と定義の変更がなされることを改めて報告。その他、今後は在宅医療・介護との連携も見据えて「地域医療介護構想」が求められることや、2040年の必要病床数等の推計は、直近の実績を踏まえた見直し修正も可能であること等を概説した。

(4) では、今村英仁常任理事が医師の地域偏在・診療科偏在について、昨年12月に公表された厚生労働省「医師偏在の是正に向けた総合的な対策パッケージ」の策定の経緯に触れ、本パッケージでは「総合的な対策」――「全ての世代の医師へのアプローチ」「従来のへき地対策を超えた取組」を基本的な考え方として、医師確保計画の実効性の確保など五つの取り組みを掲げているとし、日本医師会の考えも盛り込まれていると説明。「医師偏在には一つの手段で解決するような魔法の杖は存在しない。あらゆる手段を駆使して複合的に対応する必要がある」と改めて強調した。

(5) では、城守国斗常任理事が、かかりつけ医機能に関する議論の流れや報告制度の概要等について説明した上で、「報告は強制ではないが可能な限り報告をして欲しい」と要請。更に「本報告が行われることで、その地域でどのような機能が充足し、また不足しているのか可視化される。更に、不足している機能をどのように補うかについても、市町村、都道府県での協議の場で議論が可能になることによって、地域住民もかかりつけ医機能を享受することができると強調し、協力を呼び掛けた。

更に、江澤常任理事は、過去に経験のない経営危機に瀕していることに加えて、病床機能の変更が行われることで医療機関には更なる経営リスクや労力が伴うことになるとして、危機感を表明。調整会議においては医療機関の経営が成り立つかという視点での議論も今後

また、今後については日本医師会生涯教育制度をブラッシュアップしていくとした他、かかりつけ医機能報告制度にかかる研修の修了申請・承認作業は医師会会員情報システムMAMISを活用することを報告した。

その後、公務のため遅参した松本会長があいさつに立ち、自由民主党の社会保障制度調査会、国民医療を守る議員の会や公明党の社会保障制度調査会等で「骨太の方針2025」に向けた議論が開始されていることに言及。各会議の中では医療機関経営の現状を訴え、補助金と診療報酬の両面での対応を求めるとともに、「OTC類似薬の保険適用除外」等に対して反対する姿勢を示したことを明らかにし、参加者に対して理解と協力を改めて求めた。

続いて、13の医会等から、各々の取り組みや現状、課題などについて報告がなされ、会議は終了となった。

次回は10月15日に開催される予定となっている。



(1) では、釜范副会長がまず「医療・介護現場の経営状況は極めて厳しく、今後、持続可能性のある形で次世代につなげていくことができるのか危うい状況にある」と指摘。具体的には、①無床診療所の経常利益率の最頻値は令和5年度で0.051・0%であったが、令和6年度はマイナス3.05・マイナス2.0%に更に悪化する見込みである②医療利益の赤字病院割合は69%まで増加、経常利益の赤字病院割合は61%まで増加している③急性期、慢性期、精神科、いずれの病院も医療利益率は経年的に悪化している④介護現場においては、物価高騰の影響が大きい——こと等を詳説し、「このままでは医療や介護の事業継続は極めて困難になり、崩壊する医療機関も出てくるが、一度崩壊してしまえば取り返しがつかなくなる。また、最も懸念されるのは、国民が求める医療や介護を提供できなくなることだ」と訴えた。



今村常任理事



城守常任理事

また、今後については日本医師会生涯教育制度をブラッシュアップしていくとした他、かかりつけ医機能報告制度にかかる研修の修了申請・承認作業は医師会会員情報システムMAMISを活用することを報告した。

その後、公務のため遅参した松本会長があいさつに立ち、自由民主党の社会保障制度調査会、国民医療を守る議員の会や公明党の社会保障制度調査会等で「骨太の方針2025」に向けた議論が開始されていることに言及。各会議の中では医療機関経営の現状を訴え、補助金と診療報酬の両面での対応を求めるとともに、「OTC類似薬の保険適用除外」等に対して反対する姿勢を示したことを明らかにし、参加者に対して理解と協力を改めて求めた。

続いて、13の医会等から、各々の取り組みや現状、課題などについて報告がなされ、会議は終了となった。

次回は10月15日に開催される予定となっている。

令和7年度医師会立看護師等養成所会議

看護師等養成所を取り巻く厳しい状況や 新たな取り組みを報告



介された。

会議は江澤和彦常任理事の司会で開会。冒頭のあいさつで松本吉郎会長は、「今、一番苦勞されているのは学生の確保だ」と思う。少子化や大学志向の影響に加え、他産業と比べて十分な処遇改善ができていないことも、大きな要因である」と指摘。命を預かる職務の内容に見合

000万円近く援助を受けているなど、風前の灯火であるとした。地域の看護学校存続のためには、オンラインによる同一講義で講師陣の人員削減や看護教員の効率的配置を図りつつ、実習は地元医療機関で行うことが考えられるとし、各地の看護大学や看護学校のサテライトとして活用していくことも提案。看護教育においては、看護の醍醐味を早く経験することが離職防止につながるという見解を述べた。

（4）福井県「看護師養成所学生確保重点支援事業」について

池端幸彦福井県医師会会長は、武生医師会が運営する武生看護専門学校が、廃校の危機を回避した経緯を報告。定員40名だが令和元年より欠員となり、令和6年には同校のパワハラ問題の影響もあり、15名と定員を大幅に割り込んだとした。それを受けて武生医師会の臨時総会では、安定経営の見込みがなければ募集を停止することが承認されたものの、募集を停止しても在校生が卒業するまで数億円の財源の工面が必要であったと説明。

この他、地域創成看護の実践として、地域ボランティアを教科外活動として取り入れたことで、ボランティア先の人が学校を応援してくれるなど、地域密着型カリキュラムが奏功している状況を紹介した。

（5）諸問題に関する協議

協議では、各都道府県医師会から事前に寄せられていた、パワハラ問題への対応、運営、財政支援などに関する質問・意見・要望や、フロアからの質問に対して、江澤常任理事と習田由美子厚生労働省医政局看護課長が回答した。

令和7年度医師会立看護師等養成所会議（都道府県医師会医療関係者担当理事連絡協議会）が5月16日、日本医師会館小講堂とWEB会議のハイブリッド形式で開催され、看護師等養成所における厳しい現状が共有される一方、自治体に地域医療への貢献をアピールしてふるさと納税の寄付先に追加された事例など、新たな取り組みも紹介された。

（1）医師会立看護学校の存亡
須藤英仁群馬県医師会会長／日本医師会医療関係者検討委員会委員長は、群馬県において医師会立

（2）看護学校におけるパワハラ問題について
水方智子日本看護学校協議会会長は、近年の各地の看護学校におけるハラメント報道について触れた上で、全国看護学生はぐくみネットの調査から、行為者は圧倒的に教員が多く、「単位をあげないよ」「看護師に向いていない」などの発言例を紹介。18歳人口の減少とともに養成所入学のポ

（3）医師会立看護師等養成所の事例報告
泉佐野泉南医師会看護

令和7年度医師会立看護師等養成所会議（都道府県医師会医療関係者担当理事連絡協議会）が5月16日、日本医師会館小講堂とWEB会議のハイブリッド形式で開催され、看護師等養成所における厳しい現状が共有される一方、自治体に地域医療への貢献をアピールしてふるさと納税の寄付先に追加された事例など、新たな取り組みも紹介された。

（1）医師会立看護学校の存亡
須藤英仁群馬県医師会会長／日本医師会医療関係者検討委員会委員長は、群馬県において医師会立

（2）看護学校におけるパワハラ問題について
水方智子日本看護学校協議会会長は、近年の各地の看護学校におけるハラメント報道について触れた上で、全国看護学生はぐくみネットの調査から、行為者は圧倒的に教員が多く、「単位をあげないよ」「看護師に向いていない」などの発言例を紹介。18歳人口の減少とともに養成所入学のポ

（3）医師会立看護師等養成所の事例報告
泉佐野泉南医師会看護

（4）福井県「看護師養成所学生確保重点支援事業」について
池端幸彦福井県医師会会長は、武生医師会が運営する武生看護専門学校が、廃校の危機を回避した経緯を報告。定員40名だが令和元年より欠員となり、令和6年には同校のパワハラ問題の影響もあり、15名と定員を大幅に割り込んだとした。それを受けて武生医師会の臨時総会では、安定経営の見込みがなければ募集を停止することが承認されたものの、募集を停止しても在校生が卒業するまで数億円の財源の工面が必要であったと説明。

（5）諸問題に関する協議
協議では、各都道府県医師会から事前に寄せられていた、パワハラ問題への対応、運営、財政支援などに関する質問・意見・要望や、フロアからの質問に対して、江澤常任理事と習田由美子厚生労働省医政局看護課長が回答した。



ビデオメッセージであいさつした釜淵副会長

最後に、釜淵副会長がビデオメッセージで、「看護学校の運営は非常に厳しいが、地方にとってその存在は本当に大切であり、無くしてはいけ

（写真上）。

（写真上）。

健康 ぷらざ

健康に暮らすための
ちょっとしたヒントを
集めました。

アクセスはこちらから！
<https://www.med.or.jp/people/plaza/>

ホームページでは、550本を超える「健康ぷらざ」の
バックナンバーが無料でご覧いただけます。

日本医師会
Japan Medical Association

<https://www.med.or.jp>

日本医師会 検索

日本医師会・日本歯科医師会 合同シンポジウムを初開催 —動画を公式YouTubeチャンネルで公開中—



日本医師会は6月3日、4月6日に開催した日本医師会・日本歯科医師会合同シンポジウム「健康長寿に必要なこと—知って欲しい！お口の重要性」の動画を、公式YouTubeチャンネルで公開した。

日本歯科医師会との初の合同開催となった本シンポジウムは、国民に医科、歯科両面の観点から



飯島機構長

その後は、四つの講演が行われた。



沼部教授

続いてあいさつした高橋英登日歯会長は、「元気で働くことができる高齢者を増やし、最期までおいしく食事をしてもらうことが我々の目標だ」と述べるとともに、参加者に対して、健康で長生きするためにぜひ、このシンポジウムで知識を深めてもらいたいとした。

沼部幸博日本歯科大学生命歯学部歯周病学講座教授/日本歯周病学会前理事長は歯周病について、歯を失う最大の要因であり、日本人の約47・9%が罹患し、年齢とともにその罹患率も増えていることなどを報告。歯周病は歯を失うばかりでなく、がんや糖尿病、アルツハイマー型認知症などの原因にもなることで、ブラークコントロールの意義を強調することにも、「その予防のため



黒瀬常任理事

にも歯科医院で定期的に検診を受けて欲しい」と述べた。

黒瀬常任理事は、喫煙が歯周病や糖尿病、がんなどの生活習慣病の原因や増悪因子となるばかりでなく、互いに悪化を促進させるものになっていることなどを概説。これらを予防し、活力あるWell-being社会を実現すべきであり、禁煙がその実現のための第一歩となる」と強調することにも、参加者に対してかかりつけ医ばかりでなく、かかりつけ歯科医もつよう呼び掛けた。

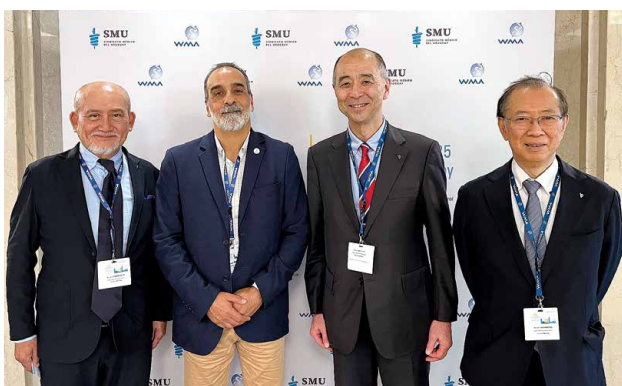


小林日本歯科医学会副会長

小林隆太郎日本歯科医学会副会長は誤嚥性肺炎について、災害時においてもその対策が重要になっているとした上で、その予防のために日頃からできることとして、①正しい姿勢で食事をする②良くない食べ方をしない③うなずき嚥下——などを紹介。楽しく食事をし、楽しく話をするなど、健康的に年を重ねていくためにも、口腔健康管理普

世界医師会(WMA)理事會が4月24日から26日を会期とし、モンテビデオ(ウルグアイ)で開催された。

日本医師会からはWMA理事として、角田徹副会長(WMA理事會副議長、濱口欣也常任理事、



ウルグアイ医師会ミナリエタ会長と



グループ及びWMA役員会に出席した。

理事会冒頭、本年4月から2年間を任期とする役員の出発が行われ、理事會議長にアメリカ医師会のジャック・レスネック・ジュニア元会長が新たに選出され、理事会副

議長に角田副会長、財務担当役員にドイツ医師会のルドルフ・ヘンケ理事がそれぞれ再選された。

また、医の倫理委員會委員長にスウェーデン医師会のクリストファー・リンドホルム理事、財務企画委員會委員長にフランス医師会のフィリップ・カタラ理事が新たに選出され、社会醫學委員會委員長にイスラエル医師会のジョン・ハガイ会長が再選された。

理事会では緊急事項として、「医療倫理的枠組みを維持するためのWMA理事會決議」「トルコにおける暴動鎮圧剤の使用と抗議者に対する人権侵害に関するWMA理事會決議」「英国における医師アソシエイトの役割に関するWMA理事會決

世界医師会(WMA)モンテビデオ理事会 初の試みとしてブロック推薦の 若手医師2名を派遣

タカラ発声練習などを紹介。朝昼晩の一日3回実演(フリップ)と定期的な歯科受診(フリップ)が大切になるとして、その重要性を強調した。

引き続き行われた実演指導では、伊藤明彦日本歯科医師会常務理事が当日配布した資料を基に、オーラルフレイル対策として、口や舌の体操、パ

その中で、黒瀬常任理事は禁煙推進に向けた日本医師会の活動として、

小冊子「禁煙は愛」の作成など、国民に正しく理解してもらうための取り組みばかりではなく、かかりつけ医機能研修の中で禁煙対策を取り扱っている他、国の支援を得るため、国会議員に対して理解を求める活動なども行っていることを報告。

医科歯科連携に関して、その推進のための課題として医師、歯科医師が互いに必要だと思うようになることを挙げるのと同時に、そのための手段として、パーソナルヘルスレコード(PHR)を活用することを提案した他、各地域の医師会・歯科医師会の果たす役割も極めて重要になると指摘した。

題として医師、歯科医師が互いに必要だと思うようになることを挙げるのと同時に、そのための手段として、パーソナルヘルスレコード(PHR)を活用することを提案した他、各地域の医師会・歯科医師会の果たす役割も極めて重要になると指摘した。

医師会活動への参画支援の一環として、全国のより多くの若手会員に国際會議への参加の機会を提供することを目指して行ったものであり、派遣に当たってはブロック医師会に若手医師の推薦を依頼。今回は関東甲信越ブロック推薦の岩本裕太郎医師(横浜市立大学附属市民総合医療センター)、近畿ブロック推薦の大江



全編

第159回日本医師会定例代議員会 次第

日時 令和7年6月22日(日) 午前9時30分
場所 日本医師会館
東京都文京区本駒込2丁目28番16号

- 開 会
1. 会長挨拶
1. 報 告
令和6年度日本医師会事業報告の件
1. 議 事
第1号議案 令和6年度日本医師会決算の件
第2号議案 令和8年度日本医師会会費賦課徴収の件
1. 閉 会

令和7年

春の叙勲・褒章受章者

坂本・笹本両常任理事が受章

政府は、このたび、令和7年春の褒章受章者並びに生存者叙勲・賜杯受章者を発表した。

日本医師会会員受章者は次のとおり。

(敬称略)

◎瑞宝重光章

春日雅人(東京都・元国立国際医療研究センター理事長)

◎旭日中綬章

小熊 豊(北海道・元全国自治体病院協議会長)

◎瑞宝中綬章

外山千也(新潟県・元厚生労働省健康局長)
原 徳壽(静岡県・元厚生労働省医政局長)
松本純夫(東京都・元国立病院機構東京医療センター院長)

吉田孝宣(千葉県・元国立病院機構下志津病院長)
鈴木 修(浜松医科大学名誉教授)

辻 省次(東京大学名誉教授)

前川剛志(山口大学名誉教授)

安原 一(昭和大学名誉教授)

山本一彦(東京大学名誉教授)

◎旭日小綬章

紀平幸一(元静岡県医師会長)

中目十之(元山形県医師会長)

◎瑞宝小綬章

伊藤達彦(元福井県立すこやかシルバー病院長)

鯉名 勉(元岩手県立磐井病院長)

大野史郎(神奈川県・平塚病院長)

齋藤晴比古(徳島県・元徳島通信病院長)

佐藤譲二(神奈川県・元総武病院長)

神宮寺慎巳(元山梨県立病院機構山梨県立中央病院長)

新澤陽英(山形県・元日本海病院長)

長澤俊郎(茨城県・元筑波記念病院長)

宮城敏夫(沖縄県・元浦添総合病院長)

◎旭日双光章

青木公平(元栃木県精神衛生協会会長)

伊藤勝仁(千葉県・元市川市医師会長)

大高 征(岐阜県・元飛騨市医師会長)

樫尾富二(元愛知県医師会理事)

鎌田修二(宮城県・元大崎

宮川政久(神奈川県・元川崎市医師会長)
宮坂圭一(長野県・元諏訪市医師会長)
宮村吉麿(三重県・元亀山医師会長)

村上 仁(静岡県・元静岡市清水医師会長)

山村善教(宮城県・元宮崎山田郡医師会副会長)

吉山 泉(富山県・元富山市医師会長)

◎瑞宝双光章

池田英世(熊本県・元弓削病院長)

井上喜通(兵庫県・元学校医)

打田理成(島根県・元学校医)

江崎俊夫(岐阜県・元学校医)

大島啓司(広島県・元学校医)

大原憲一(愛知県・元学校医)

沖津卓二(宮城県・元学校医)

押淵 徹(長崎県・元国民健康保険平戸市民病院長)

落合泰彦(栃木県・元学校医)

景山倫照(北海道・元学校医)

鎌田光裕(静岡県・元学校医)

工藤協志(青森県・元学校医)

小池祐一(宮城県・元学校医)

幸地賢治(沖縄県・元学校医)

小松奎一(秋田県・元学校医)

下條富美子(大阪府・介護老人保健施設「鶴見老人保健施設ラガル」施設長)

米総合病院長)
垂水泰敏(三重県・元学校医)

千頭孝史(大阪府・元三国丘病院長)

所 俊彦(岐阜県・元学校医)

永井孝三(東京都・元京浜総合病院長)

野尻 眞(岐阜県・元白川病院長)

林田邦彦(福岡県・元学校医)

火野坂徹(福岡県・元学校医)

右田紀雄(熊本県・元学校医)

水野和美(東京都・元学校医)

薬袋俊次(福井県・元学校医)

宮本光明(北海道・元芽室病院長)

森 史郎(香川県・元学校医)

矢澤正知(元新潟県立中央病院長)

山西政昭(山梨県・元学校医)

鈴木直文(茨城県警察嘱託医)

栗山隆信(大阪府医師会理事)

齋藤昌一(静岡県・自衛隊医療協力者)

笹本洋一(北海道・日本医師会常任理事)

正田政一郎(埼玉県医師会理事)

泊 一秀(大分県・元国家公務員共済組合連合会新別府病院長)

林田良三(福岡県・元大分県済生会日田病院長)

福原育夫(北海道・自衛隊医療協力者)

松岡 一志(秋田県・秋田労働局地方防災医員)

武曾恵理(京都府・日本女性腎臓病医の会代表世話人)

◆紫綬褒章

西田幸二(大阪大学教授)

――

◆お願い◆

受章者名の掲載には細心の注意を払っておりますが、万一、お気付きの点がありましたら、広報課までお知らせ下さい。

第7回全国医師ゴルフ選手権大会を開催

第7回全国医師ゴルフ選手権大会を日本医師会と全国医師協同組合連合会との共催により、5月4、5日の2日間にわたり、岐阜県関市内で開催した。

本大会は、ゴルフ競技を通じて会員相互の親睦・研鑽を図ることを目的として開催され、各都道府県医師会代表選手によるチャンピオン戦(団体戦・個人戦)、任意の同好者による一般戦を行った。

日本医師会が主催するチャンピオン戦には39道府県から75名の代表選手が、一般戦には39名が出た。

個人戦優勝は静岡県伊藤丈詞氏(静岡県)が、個人戦は静岡県伊藤丈詞氏がそれぞれ初優勝した。

大会は、ゴルフ競技を通じて会員相互の親睦・研鑽を図ることを目的として開催され、各都道府県医師会代表選手によるチャンピオン戦(団体戦・個人戦)、任意の同好者による一般戦を行った。

本大会は、ゴルフ競技を通じて会員相互の親睦・研鑽を図ることを目的として開催され、各都道府県医師会代表選手によるチャンピオン戦(団体戦・個人戦)、任意の同好者による一般戦を行った。



団体戦優勝(兵庫県医師会チーム)



個人戦優勝〔伊藤丈詞氏(静岡県)〕



ホールインワン〔佐々木淳氏(神奈川県)〕

南から北から

令和6年度 表彰作品発表

本紙の「南から北から」のコーナーでは、都道府県医師会並びに郡市区等医師会の会報誌に収載されているエッセー等の中からユーモアあふれる作品を選び、掲載している。

このたび、会内の広報委員会委員において、令和6年度に掲載された44作品の中から最優秀作品を選考。令和6年能登半島地震を契機として、学生時代の旅行で訪ねた石川県輪島市の朝市での出会いを思い出し、早期の復興を願うとした豊田紳敬先生の「朝市通り」（本紙第1510号掲載）と、医師としての人生と共に、個性的な髪型の変遷を振り返る中で、髪型が自身のこだわりであったことに気付いた思いをつづった山下陽子先生の「私のこだわり!?」（本紙第1521号掲載）の2作品が選ばれた。今号では、その作品を再掲する。

なお、2名の先生方には、広報担当の黒瀬巖常任理事名による表彰状を贈呈する。

朝市通り

豊田 紳敬



広島県安芸地区医師会月報 NO.602より

メディアの映像は容赦ない。正月早々のテレビ画面には、一面焦土と化した街並みが一日中映し出されていた。2024年1月1日の能登半島地震で、震度6強の揺れを観測した石川県輪島市の「朝市通り」では大規模な火災が起き、店舗や住宅など200棟以上が焼け、およそ4万8000平方メートルが焼き尽くされ

た。輪島市ではその他でも広い範囲で建物が倒壊するなどし、80人以上の方が犠牲となった。心から後悔や申し訳を上げる。私が輪島市を訪れたのは1976年の夏であった。当時は免許を取って間もなく、ご多分に漏れず運転したい盛りで、高校の同級生と二人で当り道中さまざまなハプニングがあったが、今回は

つ、持ち金の残金が半分になれば引き返す。ハネムーンしながらに他の同級生達からの見送りを受けて、2号線を東進し倉敷・岡山を経て山陰へ向かい、鳥取砂丘からはひたすら海岸線を走った。経費節約のため、エアコンは入れない、車中泊が基本で、風呂に入りた

目の前に現れた。驚いて老婆の顔を見ると「なん、よむねえもん」とニコニコしている。ありがたく完食したが、このまま立ち去るわけにはいかない。急ぐ旅ではないので、朝ごはんのお礼とばかりに客の呼び込みを手伝った。「こうでください」と、老婆に習った輪島弁で道行く観光客に声をかけた。

お手伝いの甲斐もあった。おまわり、露店より早く店仕舞いすることになり、店の後片付けを済ませてから老婆に暇を告げた。期せずして最終到達地となった輪島は、破天荒な旅の中でも殊更思い出深い街となった。

私のこだわり!?

山下 陽子



石川県金沢市医師会だより 第623号より

「私のこだわり」というテーマを頂いて、「はて？ 私のこだわりとは何だろう？」と考えてみました。自分では全く思いつかず、高校生の娘に聞いてみました。

「私「え？ 髪型?!」娘「だって、その髪型している人あんまりいないし。遠くからでもすぐ分かる」

予想外すぎる答えが返ってきました。今の私の髪型は、ショートカットにくるくるパーマがかかっています。なぜ、私はこの髪型に行き着いたのか。少々しょうもないテーマになってしまいが、髪型の変遷と共に私

の医者人生を振り返ってみました。原点は、大学5年生の病棟実習です。小児科で実習していた時、私は指導医の女性医師と一緒によく病棟で子ども達と遊んでいました。その頃、入院していた子ども達のブームは「アルプスの少女ハイジ」。絵本を持って来ては「読んで」といわれ、よく一緒に読んでいました。

やっと打ち解けてきたある日、ある子が私を指さして「ハイジ!!!」と呼び、その日から私のあだ名は「ハイジ」になりました。そう、その頃の私の髪型は、まさに「ハイジ」。ショートカットにくるくるパーマがかか



スマホ・パソコンでお手続きはカンタン!!

日本医師会

医師年金

Step 1 アニメーションで仕組みを確認

Step 2 シミュレーションで保険料を試算

Step 3 一括払専用加入申込書プリントアウトで申込み

(保険料のお支払いは後日ご案内します)

20220401S24



公益社団法人 日本医師会 年金福祉課

TEL: 03-3942-6487 (平日 午前9時30分～午後5時)

医師年金ホームページ

医師年金

検索

https://nenkin.med.or.jp

